

## 『地域研究のためのフィールド型現地語教育』

平成 22 年度派遣報告書

—ベトナム・ハノイ国家大学, ベトナム語, 派遣期間 (H22. 11. 3- H23. 3. 19) —

平成 22 年度入学  
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
博士課程 2 回生  
山川篤子

### 自身の研究テーマについて

2010 年 10 月に名古屋で生物多様性条約の国際会議が開催された。この条約は生物多様性の保全, 持続的な利用と利益の公平な配分を目的としている。今回の会議でも様々な議題について議論されたが、特に焦点が当てられたのは世界の保護区面積を何パーセントに設定するかということだった。先進国が積極的な数値を掲げる一方, 多くの途上国は現実的な数値を目標とし, その折り合いが中々つかなかった。保護区は確かに生物を保全するという意味では大きな役割をはたすが, 多くの途上国が主張するように保護区内や周辺で伝統的に, また生活の基盤として今でも生物資源を利用している人々との関係や開発との関係により, 一概に保護区の拡大を推進することができない状況にある。

ベトナムにおいても少数民族を含め, 伝統的な生活を続ける人々が住む地域にも保護区は設けられている。しかし生物資源の採取, 利用は続けられている。住民が生活する上で必要な物資でもある。また, 発展著しいベトナムでは保護区による生物多様性保全の役割が大きいのも確かである。開発との関係も含め, 様々な問題が複雑に関わり合い, 存在している。

本研究では国際条約である生物多様性条約とベトナムの特に保護区管理制度を中心に生物多様性保全制度, 政策を他国の状況との比較を通してベトナムの現場ではどのように施行されているのか, また最も生物多様性保全, 管理の障壁となっている問題は何かについて明確にする。



写真 1 国立公園周辺の村



写真 2 国立公園内部の村

## 研修言語の概要

現在ベトナム語はローマ字表記だが、長い間中国の支配下にあったため、ベトナム語の約7割には漢字を当てることができる。声調は6つであり、声調を間違えると意味が異なる、あるいは意味が存在しない場合がある。文法は英語のようにS+Vが基本であるが、名詞は後置修飾の形をとる。また人称代名詞の種類が多く、話し相手との関係やその場の状況によって多様に変化させなければならない。人称代名詞を正確に使わなければ失礼になる。

## 語学研修の内容について

ベトナム語の授業は1回およそ90分、週4回であった。同じ研究科の学生と共に学習したので、生徒2人に対し教師1人であった。私は大学学部よりベトナム語を学習していたので中級レベルからのスタートであった。授業は会話と教科書を用いての文法学習が主であった。ただ、毎回1課進むといった決まりはなく、会話だけで終わる時も度々あった。しかし学習している内容から逸れた質問や話題をしても、先生は気軽に答えてくれ、ベトナムの文化的な行事がある時にはその文化についても学ぶことができた。また授業外でも先生方が家に招いて下さったり、一緒にご飯を食べに行ったりすることもあり非常に友好的であった。ただ、レベルチェックテスト以外にテストや理解度を図ったりすることはなかったため、授業内外で学んだ単語のリストを自身で作ってチェックしていかなければ、きっちり覚え確認する機会はなかった。ただし会話をする中で学んだ言葉や表現を使用することができ、また毎回会話では笑いが絶えないほどでベトナム語を積極的に使用できる場を作ってくれていたと思う。



写真3 授業風景

## 研修中に印象に残った体験や経験

私は大家さんの温かさが一番記憶に残っている。「ベトナムでは私を母親だと思いなさい」と言ってくれるほど、実際に母親のように接してくれた。単に優しいだけでなく、電気はこまめに消すこと、蛇口はきちんと閉めること、換気をする事などの生活面での注意点を事細かに教えてくれた。決して口うるさいわけではなく、外国人であろうと本当の家族でなかろうと普段通りに、気兼ねなく接してくれていた。また私の健康を気遣い、ご飯を作ってくれることは頻繁で、家族が集まる時、伝統的行事がある時は必ず私を誘い、一人寂しくいることはないようにしてくれた。何かあれば必ず助けてくれ、味方してくれた。また間違っていることもはっきり言ってくれた。そのため、私は何でもまずは大家さんに相談するようになっていた。家族同然のように接してくれ、また時にお節介すぎるほどの暖かさが私の滞在中の支えになっていた。



写真4 旧正月でのお供え



写真5 旧正月の食事

#### 目標の達成度や反省点について

今回の渡航の目標は専門的な単語の収集や資料読解、インタビューのための表現の収集などであったが、授業では日常会話や研究内容とは関わりのない文章の読解がほとんどであった。そのため、授業により研究分野のベトナム語を深めることができたというわけではない。研究に関する言語の習得は自身での資料読解、研究機関でのアンケート作成を通して得た。インタビューでは専門用語の不足もあって自身ではあまり会話をする事ができなかったため、授業で特別に専門的な文章を読み、インタビューの練習をしてもらう時間を取れば良かったと思う。日常会話に関しては、目標の一つであった人称代名詞を正確に使うことは基本的には達成できたものの、生活の中で使う機会がなかった親族間の人称代名詞を正確に使用できる状態には至っていない。総合的なベトナム語の力は確実に向上したが、専門分野に関してはもっと事前準備と授業を活用すべきだったと思う。